

「伝統・文化」体感型ワークショップ 【実践編③】

「刻字」(受講者 30 名)

授業者：町田 千智(大阪府立渋谷高等学校教諭)

実施日：11月10日(水)

=====

■目的：・伝統・文化である「刻字」を通し、豊かな心と表現力を育てるとともに、伝統や文化に対する興味を持ち、尊重する態度を育成する。

- ・制作を通して街中の書にも関心を持ち、鑑賞眼がさらに深める。
- ・今までの書学習を生かす応用の場として、筆の動きの理解を深める。

■期待される効果：

- ・刻字作品の制作を通して、筆の動きを詳しく深く理解し表現する。
- ・筆の動き・リズム(筆脈・太細など)といった筆意を、刻字作品に表現する。

■準備教材・設備等：

鑑賞用刻字、書道用具一式、彫刻刀

■単元全体の指導計画(16時間)

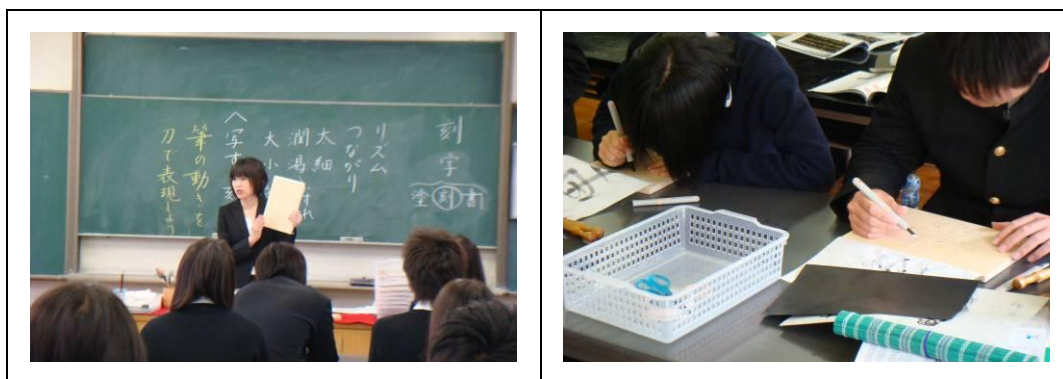
- | | |
|--------------------------|-----------------|
| ①作品のイメージを考え、書稿を練る(書く) | 6時間 |
| ②書稿を写し、刻す。落款を入れ刻す(写す・刻す) | 6時間(本時1・2/6時間目) |
| ③板に色を塗る(塗る) | 2時間 |
| ④鑑賞会・批評会(自己批評・相互批評) | 2時間 |

本時の内容の流れ

刻字作品を鑑賞 → 前時(書く)の復習 → 書稿を写し、刻す

■Advice points

- ・刻字制作をきっかけに、刻字に興味を持ってもらうために、街中にある「刻字収集」することなどを事後学習にすると、より効果的である。



刻字作品制作を通して一完成までの姿から一

実践発表 ―「刻字」―

大阪府立生野高等学校 教諭 松岡 千雅子

1. 趣旨

刻字作品に取り組むことにより伝統や文化のよさを感じ取り、豊かな心・創造力を育てる

2. 概要

① 刻字とは

- ・書の線は立体である
- ・彫るということ

② 課題設定の理由

- ・長時間掛け、様々な行程（原稿制作→木に写す→木を刻す→仕上げ）を進める中で求められる力を付ける

③ 研修の意義

- ・技術面の向上
- ・作品完成までの追体験
- ・意識面での変化...身近にある伝統・文字文化を再確認

④ 生徒の成長

- ・書の線が立体になっていく感動
- ・作品を仕上げていく姿

3. まとめ

- ・刻字作品を大切に扱う姿・他者の作品を褒め、認め合う姿
- ・芸術書道・文字文化への興味・関心
- ・高校2年生で取り組む意味